

平成 30 年度
西川エリア内実態調査
～夜間（17 時-21 時間）における通行量およびニーズ調査～

<実施団体：西川エリアまち育て協議体>

●実施について

南北に流れる西川緑道公園を背骨として
東西に広がる西川エリア（本町・錦町・幸町・平和町・磨屋町・田町：6 町内）
は、

- ・夜営業の飲食業が 630 店以上出店している「飲食街」
- ・宿泊施設が集中するためビジネスマン・観光客が訪れる「駅前中心街」
- ・生活者もいる「生活圏」

という大きく 3 つの特徴・魅力を備えた混在エリアです。

数年後には西川エリアを囲うように大型複合商業ビルが建つ計画があり、高層マンションも急増。

岡山駅は、西日本の人気観光地（大坂・京都・広島・香川）の乗り換えや通過ポイントであり、2019 年～2020 年の芸術祭やオリンピックのインバウンドなどの影響で、今まで以上にエリアへの人口流入が起こり、人の流れも大きく変化することが予測されています。

西川エリア内には、

南北に流れる西川緑道公園と下石井公園という二つの公園があり、
ここ数年は公園を活用したイベントも多く開催されてきました。
年に数回、昼間に開催される単発イベントを「非日常」と仮定すると、
毎日 17 時以降営業で賑わう夜時間は、西川エリアの「日常」です。

「非日常」である昼間の通行量調査は何度も行われてきましたが、
「日常」である夜時間の通行量調査は過去一度も行われていませんでした。

そのため、西川エリアの現状や本当に必要とされているニーズがわからず、岡山市も町内会も飲食店（事業者）も、今起こっている問題に対応できない状態が長くつづいています。

とくに、今後さらに増えるであろう事業者（飲食店や宿泊施設）と観光客、生活者の間で問題となっている騒音や呼び込み、おもてなし環境などへの対応が遅れているという課題があるのでは、と協議体では仮説を立てました。

平成 30 年度「岡山市市民協働推進ニーズ調査事業」を活用し、これからの西川エリアのあり方を考える上で必要な現状把握を目的に事業を実施しました。

●事業実施で見えてきたこと

平成 30 年度のニーズ調査では、現在の西川エリアは、豊かな緑に囲まれた「飲食街」としてのポテンシャルを生かしきれておらず、「駅前中心街」としての有効な案内機能やおもてなしといったサービスが充分ではないことが見えてきました。

また、ビルの立て替えなどによる飲食店の新規参入による騒音、光害、風紀の乱れ、公園を中心とした道路における歩行者と車との安全性の問題なども浮き彫りになりました。

1) 通行量調査 ※各数値の詳細は別紙を参照のこと

・E 地点（本町交差点）

約 16000 人の通行量がある。

とくに西川緑道公園に向かう人の流れが多く、飲食が目的と思われる。

交差点内での歩行者の滞在時間が長く、マッサージ店等の呼び込みも多い。

夕方早い時間には、桃太郎大通りから左折する車と人・自転車との安全面が心配になる場面もあった。

- ・ AB 地点（野殿橋交差点）

飲食店が並ぶためか、西川緑道公園東筋側を歩く人が多く、東西へ抜ける方向が多い。金曜・土曜ともほとんど通行数に変化はなく、約 8500～9000 人が交差点内を通行している。

ガールズバーの呼び込みがとても増えている。

- ・ D 地点（県庁通り交差点）

平日金曜日は、東西の流れに大きな変化がないが、土曜日は天満屋方面に抜ける人よりも市役所筋に向かう人の流れが増える。夕方早めと 21 時以降に人の動きが増える。1 次会から 2 次会への移動と思われる。

- ・ C 地点

南北の人の流れは比較的落ち着いている。

2) 西川エリアに訪れる来街者へのインタビュー、アンケートによるニーズ調査

回答を分析すると、

西川エリアへのイメージは、人によって断片的で来街者が思い描くポイント（地点）が異なっていることが見えてきました。

また、イベントのイメージに強く左右されていることも見えてきます。

これは西川エリアが、これまで「エリア」としての「面の視点」がなかったためと思われます。

そして夜営業が多いということから、行政が関わりにくく、岡山市も公園を中心とした昼間のにぎわいづくりを行ってきました。

そのため、多くの事業者（飲食店など）とイベント主催者が個別に動いている状態であり、連携や情報共有といった仕組みが弱く、多種多様なイベントや飲食店があるにもかかわらず、全体としてまとまりがない無秩序なエリアとして、エリア全体の印象が無い、もしくは弱いということもわかってきました。

経済面から言えば、昼間のイベントを主体に来街する方よりも

夜の来街者の方が、地域に落とす金額が遥かに大きいことがわかります。

これは、西川エリアの「食」に「観光資源」としての価値があることを示していると考えます。

西川のにぎわいは、好意的に受け取る方が多い一方で、住みたくはないという方が多くいらっしゃいました。

これは、夜間の騒音や風紀の乱れという課題が、私たちが予測していた以上に多くの方が問題提起をされており、エリアのポテンシャルを脅かす自体になりつつある状況と危機感を強くしました。

●結果を踏まえて

西川エリアまち育て協議体は、

- ・まとめサイトの情報の収集と発信
- ・地域の課題やニーズを拾い上げるプラットフォーム
- ・飲食店（事業者）との連携を図り安心安全で楽しめる飲食店街の形成をサポート

という役割を担い、今後も継続した取り組みを行うことで西川エリアの魅力を広め、訪れる人、暮らす人、事業する人が快適に利用できるエリアづくり、仕組みづくりの確立につなげていくことが必要だと感じました。

今回の調査データは今後、

西川緑道公園のパークマネジメントを含めた西川エリア全域を包括的に所管するエリアマネジメントを行う指標にもなると感じています。

*岡山市市民協働推進ニーズ調査事業パートナー

岡山市都市整備局 庭園都市推進課